

2021 年度
 学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

放射線技術科学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:放射線技術科学科長 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナ禍で臨床能力試験ができなかった</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各授業で小テスト、中間試験、ノート提出などを行った</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 シラバスに適切な評価方法が記載されている。 コロナ禍で1年～3年では全科目の確認試験となる国試模擬試験はできなかった</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p>

	<p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学内実習において確認試験を行った GPAは個人指導に用いた</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動 注4)を促します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ガイダンスや個人面談で指導した</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 下位学年の講義の中に過去問を解かせ国試を意識させた</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の意識調査を行った</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 FDの授業評価を参考に改善している</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 臨床実習先で本学教育に対する評価を活用している</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 IRと連携を行っている</p>

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・管理栄養学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長、管理栄養学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。 知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。 また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学修ポートフォリオの活用については、やや遅れ気味であるが、その他は達成している状況。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。 「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 小テストについては、各授業毎ではなく2~3回毎に行われている場合もあるが、その他については達成している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。 全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 アウトカムの確認を行いつつある。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p>

	<p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 3年次後期ガイダンス時に確認試験を導入している。なお、本年度入学生より履修要件に入れた。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 PDCA活動を促してはいるものの活動している学生が少ないのが現状である。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数は88%であった。本年度よりアチーブメントテストを履修要件に入れ、改善を図っている。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 評価尺度を用いた評価は、一部科目について行われている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 各教員の各担当授業毎に授業評価を行い、改善を促している</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 4～5月の卒業生講演時に評価をいただいている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 これまでのIR分析結果より改善を図っている。</p>

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・臨床検査学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長・臨床検査学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 臨地実習、学内実習における客観的臨床機能試験及びPPによる実習時まとめの発表は達成している。 臨地実習、学内実習におけるレポート作成はほぼ達成している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 座学における繰り返し学習、復習のための小テストを実施してほぼ達成している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 座学における復習のチェック機構の充実、確認を強化する。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えてGPA 注3による評価を活用</p>

	<p>します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>GPA2.0以下、急激にGPA下降した学生の面談を実施しておりほぼ達成している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動 注4)を促します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>アンケート調査、面談を実施して具体的に聞き取りを教員が判断しておりほぼ達成している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国家試験対策担当教員が各ゼミに出向き、進行具合をチェックしておりほぼ達成している。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>アンケートを実施して内容に準じた教育方針を会議で議論することを実践しておりほぼ達成している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>自己評価を参照して議論して学生にフィードバックする実践をしておりほぼ達成している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>卒業生に臨床検査技師の職業体験授業をしてもらい、学生がどのようなタイプの就職があるかを考えさせる講義を実践しておりほぼ達成している。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>全体として実施している内容は多い。しかし、成果が出ていると言えないところもある。今後は、成果が出たかどうかをより細かく各学年の動向を見ながら検討していく。</p>
--	--

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療法学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・理学療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床実習科目ではルーブリック、OSCEを導入、厚労省新指定規則に準拠して、成績評価を実施した。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「形成的評価」「総括的評価」共に実施。国家試験への対応も強化した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 計5回の臨床実習を節目とし、専門科目の講義、実習、試験を配置し、臨床の中での位置づけ、国家試験との関連を科目毎に解説した。さらに学年末の基礎3科目模試を実施、到達度を確認、成績不良者への学習指導を行った。</p>

	<p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 GPA を進級、卒業、国家試験合格の目安とし、学生、保護者面談の資料に活用した。また、臨床実習施設間にも難易度の差があるため、学生配置の参考資料として活用した。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 特に臨床実習科目において、「行動記録」「学習記録」「行動計画」を毎日の記録としてPDCA 活動を行わせている。実習支援システムを使用し、教員が適宜、指導、助言を与えている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 過去 5 年間の国家試験合格率は、91～100%で、常に全国平均を上回っている。入学時の偏差値と比較し、国家試験合格率の順位は東海地区内で約 9 校と逆転、成果を上げている。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実技試験を伴う科目ではルーブリックを用いた成績評価を導入している。 臨床実習科目では、加えて OSCE によるルーブリック評価を実習開始前に実施している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の最終目標は卒業、国家資格取得なので、国家試験解答内容を分析し、各教員はこの結果を受け、授業内容の改善を図っている。同時に授業評価による学生からのフィードバックも参考にしている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>学科開設 20 年を迎え、本学科の臨床実習指導者の多くが、本学卒業生となってきた。臨床実習毎の面談、メールや電話によるコミュニケーションは密に取れている。さらに学科会議で学生の学習状況や問題点を共有し、改善に役立っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 特に休退学者、留年者の特性を分析し、指導の参考に利用している。</p>
--	---

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・作業療法学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・作業療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ループリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>客観的臨床能力試験(OSCE)を実習前に取り入れ、総合的な達成度を検討している。また、その前に補修を行い円滑に試験が実施できるように進めている。そこで技能や態度を評価している。個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>「形成的評価」として、授業で小テストや国家試験・資格試験のための模擬問題を学生にとかせている。「総括的評価」として学年修了時に3科目の模試をおこない、最終的総括評価をしている。この模試で水準に達していないものは課題をかして、再学習を行なっている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業, 科目, 学年終了時において、学生ができるようになったかを評価方法し、最終的な目標達成に至る自分の達成度を全国の養成校の水準で確認している。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 GPA の得点をもとに卒業、国家試験、就職の目安として4年前期に確認し就職活動の有無に利用している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生に主体的に学習に取り組むために、学生が自ら学習ノートを作成し、学習した内容を振り返るように進めている、このノートは、国家試験の準備で活用し、自己の学習改善に結びつけている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 今年度、はじめての国家試験受験となるため、全国の同種・同レベルの大学と比較できていない。しかし、専攻の目標を全国レベルより上位におき、国家試験の合格率を高めることを目標としている。その後、教育課程編成や学修指導方法の改善に役立てようと思っている。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 技能や態度への教育効果について各専攻・各科目の評価尺度を用いた評価結果をもとにしている。また、全学的な調査を確認して指導を行なっている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の授業評価や教員の自己評価により、学生の立場に立った授業や教育課程の改善の研修会に参加している。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 まだ、卒業生が出ていないので卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価は聴取できていない。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 さまざまなデータを大学として集積して分析し、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図っている。</p>
--	---

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・医療福祉学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長・医療福祉学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 すべての教員ではないが学習ポートフォリオやラーニングボックスを積極活用することで学習意欲が高まっていることが確認できた。また、講義科目においては、ソーシャルワークにおける価値・知識・技能を問う専門試験において、客観的に学習成果を評価することはできた。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。 「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 講義科目・演習科目ともに、講義の各回におけるミニテストや中間テスト、リアクションペーパーの実施・活用によって、学修成果の到達度を把握した上で、学生の習熟度を把握し、学修成果の充実を図る取り組みを行った。その結果、本専攻内においては概ね到達水準に達したものと評価を下した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。 全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%)■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>3年次生は相談援助実習や精神保健福祉援助実習をとおして、4年次生は医療ソーシャルワーク実習をとおして、ソーシャルワーカーとして目指すべき専門職の姿を理解するとともに、現時点における自らの状況(自分の立ち位置)を的確に確認することができたものと判断する。さらに、3、4年次生は前後期の国家試験対策において、全国統一模擬試験、学内模擬試験等の結果により、国家試験の合格ラインと学生自身の学力とを実感できるように指導援助を展開したが一部の学生には不十分だった。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>相談援助実習に関しては、2年後期の相談援助実習指導Ⅰから3年前期の相談援助実習指導Ⅱに推移する時点で習熟度テストを実施し、学外実習の可否について決定することとしている。なお、3年後期の精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、医療ソーシャルワーク実習指導についても相談援助実習と同様に実力試験を実施し、学外実習の可否を判断するものとしている。なお、実習の可否イコールGPAとの評価は、本人の隠れた能力や資質を見落としてしまう危険性を孕むことにもなりかねないため、実習の可否はGPAのみで判定することを極力避け、あくまで参考事項として評価を行うものとしている。そのためにも随時口頭試問を行うことによって専門職としての資質の確認を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>実習指導や演習授業においては、とくに事前学習や事後学習の一つとしてレポート課題を出すとともに、頻回のグループワークを用いたプレゼンテーション授業を行うことをとおして主体的・積極的な学習への取り組みが行えるようになったと理解している。さらに、卒業研究においては、ゼミ担当教員から指導を受けることによって、学生自ら積極的に論文テーマの研究に取り組むとともに、計画的な論文作成を行うことができた。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2021年度に卒業した学生は、入学者26名のうち、社会福祉士国家試験受験者26名、同合格者12名(入学者比46.2%、受験者人数比46.2%)、精神保健福祉士国家試験受験者7名、同合格者3名(受験者人数比42.3%)の成績であった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ル</p>

ーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

国家試験受験までに、模擬試験を頻回実施し、その後習熟度・合格可能性に関する分析を専攻内で独自に行っている。その結果、おおよその合格可能性の評価は下すことができたが、2021年度に関しては、コロナウィルスの関係で対面での国試対策ができなかった点もあり、概ね6割の正答率から今年度は突然正答率7割となり、専攻内で予測した結果と若干の誤差が生じた。

- ③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

全教員が、学生の授業評価に対して真摯に検討を行い、次年度のシラバスに改善点を工夫した上で、講義の再構成を心がけている。教員の自己評価は教員毎に個別に行われ、その成果が授業や教育内容の改善に生かされているが、さらに創意工夫の余地がある。

- ④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

卒業生が本学教員を訪ねて来る機会は多く、オープンキャンパスの手伝いもしてもらっている。また県内社会福祉・医療機関の職員が情報交換や就職の応募案内のため本学に来ることも多い。そこで得られた情報は学科会議・専攻会議等において教員間で情報共有が行われ、教育課程や内容の改善に適切に生かされている。しかし、在学生のインターンシップへの積極的な参加を促す課題は残っている。

- ⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

大学 IR 推進委員会の本専攻にかかる報告会を実施し、その内容を教員間で情報共有を行い、その結果は教育課程や教育内容の改善に生かされている。

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・臨床心理学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長、臨床心理学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ルーブリックは導入していないものの、講義科目では知識・思考を確認するためレポート、小テスト、発表を組み合わせ、また技能や態度についても、ディスカッションや発表に即して総合的な評価を行っています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>小テストやリフレクションシートを通して、期待される水準に到達できているかを確認し、最終試験で総括的に評価を行っています。また、学習意欲の乏しい学生には個別に指導を行っています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>1年生でチーム医療、基礎心理学を修め、2年生では臨床心理学の</p>

	<p>基礎を学び、3・4年生で実践的な心理学を学修するカリキュラムとしています。実践的な心理学については、2年生の心理実習Ⅰで実習施設指導者からの講義を受け、心理専門職としての姿勢を身につけます。3年生の心理実習Ⅱではコミュニケーションスキルを高める体験が含まれます。4年生の心理実習Ⅲでは、実際に現場に出て、高い倫理意識や臨床的態度を常に心がけて実習に赴きます。このように、知識や実践能力に関わる自分の立ち位置を把握することができるようにカリキュラムを設定しています。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床心理学専攻の場合は、修士課程に進学して国家資格である公認心理師の受験資格が得られます。学修レベルに到達しているかという指標として、大学院進学推薦基準として GPA を活用していますし、進学指導の一助としています。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 小テストの結果のフィードバックや、レポート・卒業論文の指導、心理実習の事前・事後指導を通して、学生に学修行動を振り返るよう促しています。PDCA 活動として明確な道筋ができるよう一層工夫したいところです。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床心理学専攻では修士課程修了後に国家試験・資格試験を受験することになりますので、国家試験対策に成績を活用することはありませんが、大学院進学希望者には3年次のゼミ指導において GPA を考慮に入れた個別指導を行っています。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業時に実施する学修行動調査、大学生生活における学生意識調査の結果を参考にしています。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 学生の授業評価を取り入れ次年度に改善するよう、各教員が取り組んでいます。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 公務員や教員、医療機関の職員となった卒業生・修了生からは情報を少しずつ得られるようになってきました。しかし就職先機関との連携はまだ不足していますので、今後増やしていきます。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 IR推進委員会で示された情報を教員間で共有し、教員各自が実施する講義において反映させています。</p>
--	---

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

鍼灸サイエンス学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:鍼灸サイエンス学科長 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>知識や思考力の評価方法は試験、技能や態度についてはプレゼンテーション・実技・実習などを観察し、適切な評価尺度を用いる評価方法を活用しています。評価尺度については、事前に説明し、その学習方法について個別に面談しています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p style="text-align: center;">■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>形成的評価については、国家試験および最終的総括評価(合否の判定)の2つを重点的に強化しています。国家試験は、学生の習熟度に合わせた実力テスト・模擬テストを底上げを目的として提供しています。総合評価は、必要な水準に達成できるまで、繰り返し実施しています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p style="text-align: center;">□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 実技・実習科目では、達成度に応じた段階的な教育と評価を行っています。達成状況に遅れのある学生には、個の習熟度に応じた評価を実施しています。講義科目は講義中の段階的評価は行っていないが、面談によって目標達成への学生の立ち位置を把握しています。全科目において、定期試験後、成績不良者に対して再度、段階的かつ反復した学習と評価（トコトン教育）を行いながら、目標達成に向けて関わりを持つ指導を徹底しています。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 個別および三者面談時の指導において、進級・卒業・国家試験合格の目安として活用しています。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 成績不良の程度によって個別面談を増やし、学生の日常の取り組み状態を把握しながら、自己改善に結びつける活動を促しています。また教育支援者へも報告して、改善に結びつけるための協力をお願いしています。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2021 年度入学者 21 名あたりの合格率 57%であった。退学者の多く目標設定 66%と設定していたが、達成することができなかった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育効果を高めるために、学科評価と全学的調査を含めて、評価指導しています。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の授業評価に基づき、担当教員の教育改善を継続しています。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 客観的評価はないが、口答による主観的評価や意見を聴取して、教育課程の向上に生かしています。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IRでの分析結果に基づき、国家試験対策や教育課程の改善に取り組んでいます。</p>
--	---

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

臨床工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:臨床工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>知識と思考力の評価は、定期試験とレポートで行っており、技能や態度の評価は、「生体機能代行装置学実習」で、口頭試問および実技試験の評価にルーブリックを用いている。</p> <p>学生自らが行う学修ポートフォリオの活用は実施できていない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>講義中に小テストを実施し、講義中の重要なポイントと定期試験までに到達しなければならない水準を把握できるようにしている。</p> <p>また、4年次には、国家試験の模擬試験を毎月1回以上行い、試験ごとの採点結果を学生に配布して苦手分野の把握、国家試験合格までの到達度を把握できるようにしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 シラバスに講義の各回における到達目標が記載されており、授業終了時、または、科目終了時に「何ができるようになったか」が確認できるようになっている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2 年次後期の学修指導、4 年次に国家試験対策でのクラス分けに GPA を活用している。また、各学年の前期と後期に定期面談を実施しており、単位の修得状況と GPA を併せた修学指導を行っている。 3 年前期学内実習中での確認試験の導入はできていない。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 前期と後期に実施している面談時に、各学年担任が成績(GPA)をもとに修学指導を行い、これまでの学修行動の振り返りを促している。 振り返りから得られた知見から、今後の学修計画を立ててもらい、必要に応じて、基礎力向上のために開講されている選択科目の履修を勧めることで、学修行動の改善を行っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。 全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「入学者数あたりの合格者数」は学科内で共有され、この数字をもとに、次年度の学習指導方法の改善を行っている。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学修行動調査や意識調査の結果は学科内で共有され、技能や態度の教育効果の評価に活用されている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の授業評価を各教員が確認し、授業評価の結果をもとにシラバスに改善案を記載するなど、教育方法の改善を継続して行っている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、</p>

	<p>教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「本学の教育」を評価するためのアンケートは現在作成中であり、完成次第アンケートを実施し、評価の結果を集計分析し、教育過程の改善に生かす予定である。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 IR 推進室から提供されるデータはもとより、学科内でデータを活用した教育方法の改善は常に行っており、各学年の GPA を分析することで、学年ごと、さらには学生ごとに合わせた国家試験対策を行う予定である。</p>
--	---

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療健康データサイエンス学科/ 医用情報工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医用情報工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>知識を記憶することを目指した授業では、試験やレポートで評価しているが、能動学習能力、コミュニケーション能力(グループ討論、共同作業)などの仕事に関する態度を身につける授業では、作成したスライドだけではなく、プレゼンテーションの評価を学生に行わせ、学習内容を聞き手に適切に表現し、説明する技術を体験により、学習する過程を評価している。そして、卒業研究の発表会では、全学生と教員が投票により、優秀発表賞の受賞者を決定し、学位記授与式で表彰した。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>ほとんどの授業科目で「形成的評価」を行うために、授業中に学生に発言を求め、レポートの提出、理解度テストの実施、国家試験の過去問を解答させる授業を行っている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 目標達成に至るマイルストーンを意識させるために、難易度の異なる検定試験と国家試験を学年ごとに示し、受験に対応した授業を行い、徐々に難易度の高い国家試験・検定試験にチャレンジするように指導をしている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 GPA を活用して、国家試験・資格試験に対する学生の学修指導を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 在学生ガイダンス(3月)、後期ガイダンス(9月)で学生に「将来設計と生活時間 PDCA シート」に説明し、PDCA シートを提出させた。この PDCA シートでは、学修目標、卒業後の職業に向かって、どのような努力をし、どの検定試験を目指しているかを明記させ、その目標に向けた準備をし、学習時間を確保する生活時間を過ごしているかを自己点検させている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の達成度を評価するために、授業中に過去問を解答させている。そして、2020 年度に開設した新学科では、早期に検定試験、国家試験を受験させる教育課程編成に変更し、教育改善効果を確認している。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科の専門的な評価尺度は、個々の授業担当者が検定試験や国家試験を参考に作成した評価となっている。それ以外の評価については、全学的な学修行動調査や意識調査により評価している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の種々の意見を反映し、学生の立場に立った授業を実施するために、2020 年度に開設した新学科では、大幅に教育課程を変更した。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の就職先機関による本学科の教育に対する評価アンケートを実施し、「データサイエンス」に関する要望が高いことを確認し、新学科の教育課程を編成した。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを現在蓄積しており、今後、相関関係、因子分析、主成分分析などの多変量分析の手法を使用してデータ解析する準備を行っている。</p>
--	--

2021 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

薬学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:薬学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各授業にて、ルーブリック評価法などを用いるなど適切な評価を実施しており、また、OSCE、事前実習などで薬剤師としての技能や態度をしっかり学んでいます。薬学部では、薬学教育評価機構による第3者評価を受審しているため、特に十分な対応ができていると考えております。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」は、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などで評価します。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験で評価します。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各科目に関して、各授業シラバスにおいて単位認定評価における「形成的評価」と「総括的評価」を明記した上で、実施していただいております。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各授業担当者により、シラバス上で学生が何かできるようになるかを学</p>

	<p>生主体で示しており、実行していただいております。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 GPA については保護者にもしっかりと内容をご理解いただくように面談時等に説明しております。また、3年次修了時点で専門科目の GPA が 2.0 未満の学生には、4年次の共用試験の合格が厳しい傾向にあるため、3者面談を実施しております。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 重要な試験などの成績開示時には担任との面談を実施して、学生が学習行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動を促す機会を作っております。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。 全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学科では2年前からストレート合格率を基準に国家試験対策を実施し、その理念の下で教員による教育が進められています。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 上記の概念で教育を進めております。また、学生の学習などに関係してくるようなものについては、周囲の情報についても、担任を中心として情報を共有化するようにしております。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の授業評価については、できる限り時間を設けて評価させるように促しております。また、FD 研修への参加など、教員の教育に対する自己研鑽も不断に継続されております。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 同窓会や学生交流会などで卒業生の体験談など OB との交流の機会を広く設けてきました。昨年度は6年生に対して複数回 OB による国家試</p>

	<p>験 の体験談を披露する会も設けられ、アンケート調査においては高評価を得ております。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>IR 委員として定金教授より種々のデータをいただき、薬学教育センター学部長、学科長により解析し、学生の教育に利用しております。</p>
--	--

2021 年度
 学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

看護学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:看護学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2021 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。 知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。 また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 レポートなどの成果物を評価する卒業課題、看護実践能力を評価する看護学実習の一部、プレゼンテーションやレポートで評価を行うコミュニケーション入門ではルーブリック評価尺度を活用している。看護技術など実技の評価においてはチェックリスト形式で客観的な評価ができるようにしている。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。 「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ほぼ全科目で小テストや事後課題による形成評価を行っている。到達度を学生にフィードバックし科目の目標に到達するための支援に活用している。 国家試験のための模擬テストは各学年の学修進度に合わせて実施している。特に最終学年の4年次は複数回実施している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。 全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各科目で実施している小テストや事後課題による形成評価の結果は、適時学生にフィードバックし、科目の目標に到達するための支援に活用されている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 看護学科では、1・2 年次の 3 月時点の GPA が 2.0 未満の学生を対象に、担当教員が面談を行い、学習方法の振り返りと今後の学習計画指導を行う。早期からの対応が必要なため、2021 年度からは GPA2.0 以下の場合、1 年次から保護者との 3 者面談を行い、状況の認識を共有するとともに、国家試験に向けた学習計画と家族の協力を得られるよう説明を行っている。3 年次以降もゼミ担当教員が GPA が下がった学生に対して定期的に学習指導を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年度当初に教員は担当学生と面談を行い、前年度の振り返りと今後 1 年間の学修目標の確認及び具体的な行動計画立案を行い、PDCA 活動につながる支援を行っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1 年次から 4 年次まで計画的に国試対策セミナー・模試を計画・実施してきた。模試の結果が思わしくない学生は、担当教員と学生委員会の国試担当教員が連携して指導していった。その結果、2021 年度卒業生の看護師国家試験合格率 98.8%(86 名中 85 名合格)、保健師国家試験合格率 100%(17 名受験)であった。対入学者あたりの看護師国家試験合格率は 91.6%である。看護師国家試験の合格率は 91.3%であり、それは上回っているが、対入学者あたりの看護師国家試験合格率の情報がないので、評価はできない。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学的な学修行動調査や意識調査により、夜間のアルバイトや夜型生活が学生の成績に影響していることから、1 年次などの早期から学生の面談で、これらについて把握し、担当教員を中心に対処している。</p>

	<p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学生の授業評価と教員の自己評価は毎年実施しており、学生の評価を授業に取り入れたり、教員の自己研鑽のための FD の定期開催を実施している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019 年度に実施したが、回収率が低かった。その後はコロナ禍であり臨地実習も困難な状況が続いている。実習先に就職している卒業生が多く、年度末の実習調整会議では、コロナ禍での卒業生の状況や課題について意見交換を行うなど、基礎教育と就職後の新人教育についての話があり、部分的に活かしている。今後は、卒業生対象のアンケートの実施や就職先の教育評価の実施の是非と方法を検討する。</p> <p>なお、2019 年実施卒業生アンケートから見出された課題であった国際看護については、2021 年度からはコロナ禍でも外国で働く看護師やコロナ感染対策の第一人者などの講師によるオンライン講義を取り入れる。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国試結果と 1 年次からの成績を IRと連携し分析しているが、十分な活用できていないので、活用方法について教務委員会、教育質保証委員会を中心に検討していく。</p>
--	--